

『のろのろ、じたばた』

京都大学工学研究科建築学専攻修士1回生

津田龍平

要旨

締切を絶えず意識し、与えられた時間の中で最大限のことをしようとするに、時々生きづらさを感じはしないだろうか？そういうときこそ「スロー」を飲んで人生をのんびりと過ごすことが重要かもしれない。

1. 序

何故忙しいのか？自分がこれほど「やらねばならないこと」に追われているのはどういう理由で、それは果たしていつからだったのか？全く見当のつかないことである。

今この原稿を書いている間にも、研究室ゼミ、授業の課題（大学院にも数は少ないが授業がある）、申し込んでしまった資格試験、放置している事務手続き、エトセトラエトセトラ…。とにかく色々なものに追われており、記事を書いている暇はないことは紛れもない事実である。現にこの記事はゼミでの進捗報告を控える中、現実逃避で書き始めたものである。本稿ではてんとう虫コミックス（以下、てんコミ）5巻1話目に収録されている、「のろのろ、じたばた」を紹介したいと思う。

2. 『のろのろ、じたばた』のあらすじ

ドラえもんが宿題を手伝ってもらおうとどら焼きを差し出すのび太は、その魂胆を見抜かれてドラえもんから説教を食らってしまう。だがのび太はというと「そうねえ、今夜ゆっくり考える」と返すばかり。

愚鈍さに呆れたドラえもんが出したのは、「クイックとスロー」というひみつ道具。クイックを飲むと気持ちも体の動きも早くなり、スローはその逆になるのだという。それでも「またあとで」、「薬が嫌いなんだ」と頑なに飲まないのび太に対し、仕方なくクイックを飲んでみせるドラえもんだが、あまりのせっかちに困るのび太はスローを飲んで戻るように促す。しかしドラえもんは間違えてクイックを飲んでしまい……。

3. 「のんびり行こうよ、人生は。」

本題に入る前に時間に関するひみつ道具の一部を分類して整理しよう。何を操作するか・操作者の体感が変わるか否かに注目して区別し、表1のような分類を行った。この際、タイムマシンを始めとする、現在を軸にして時間の流れを大きく超えるような道具は除外した。また、今回はすべてのひみつ道具を調査しているわけではないため、この分類にない道具ももちろんあることに注意されたい。

この分類の尤もらしさ・厳密性は一旦置いておくとしよう（例えば表中に挙げていない「宇宙カプセル」は「すいみん圧縮剤」と似た効果を持つ）。我こそはより詳細な分類・考察ができるという方は是非ご一報いただきたい。さて特筆すべきは、表中のひみつ道具が出てくるどの話も大体はのび太の時間に対する考え方が如実に表れている点である。結果として、特に自分以外を操作するタイプのひみつ道具が登場する回では、相変わらずの使い方のまずさにより大惨事を引き起こすこともしばしばである。

表 1 時間に関するひみつ道具の分類

	自分以外を操作	自分を操作
体感は変わる (現実には流れる時間 ≠体感時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を停止させる <ul style="list-style-type: none"> - タンマウォッチ (T24) - ウルトラストップウォッチ (T39) ・ 時間の進み方を速く or 遅くする <ul style="list-style-type: none"> - マッドウォッチ 驚時機 (T8) 注1) - 時門 (T31) - わがまま時計 (アニメオリジナル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体感を変化させる <ul style="list-style-type: none"> - クイック, スロー (T5) - 三倍時計ペタンコ (T23) - 三分の一時計ペタンコ (T23) - 時間ナガナガ光線 (T25)
体感は変わらない (現実には流れる時間 =体感時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間をセーブできる <ul style="list-style-type: none"> - 時間貯金箱 (T16) - むだ時間とりもどしポンプ (T34) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理的に時間を生む <ul style="list-style-type: none"> - 眠くならない薬 (T6) 注2) - すいみん圧縮剤 (T16)

※てんコミ収録巻を「T+数字」で表す。例えばてんコミ1巻収録の場合「T1」と表記。

注1) 「狂時機」(原作版初期・大全集)とも。ルビも「マッド・ウォッチ」,「きょうじき」など表記揺れあり。

注2) 『ドラえもん最新ひみつ道具大辞典』での名称。てんコミ6巻では道具名表示なし。「ハツラツン」など他に複数の呼び名も。

クイックとスローは時間を直接的に扱わない分比較的スケールが小さく、また放っておけばやがて効果が切れる分、被害も比較的少ない。難点を挙げるなら、飲むことによる直接的なメリットが微妙なところだろうか。というのも、クイックとスローは服用すると心や体の動きを速くしたり遅くしたりできるが、あくまでも思考と身体の上昇速度を上げ下げするだけのものでしかなく、要はクイックを服用したとて気が焦るだけだからである。尤もそれが良い原動力となれば効果的だが、作中でクイックをさらに飲んでしまったドラえもんは、底知れぬ焦りだけでのび太を振り回し、止まらなくなってしまう。

対比して、章タイトルにあるのび太の台詞である。冒頭の「今夜ゆっくり考える」もそうであるが、ズバツと決断せずに自分のペースを見極めているのはのび太らしい。評価すべきは単にのんびりであるということだけでなく、それを自身のポリシーとして守っているところである。人間誰しもこだわりの1つや2つ持つものとは言え、ここまで徹底して芯が通っているとは……。翻って、クイックを飲んだドラえもんほどではなくとも、毎日降りかかる大量の“To do”に振り回される我々は、ある意味クイックを飲んだ状態になっていやしないだろうか。クイックを効果的に扱い、充実したサイクルを回しているならまだしも、望まぬまま忙しさに身を投じて疲弊してはいないだろうか。



図 1 至言

4. 今こそ我々は「スロー」を飲むべきだ

時間に関するひみつ道具が数多ある中で今回この話を取り上げたのは、のび太というある種「スローの概念」がドラえもん（平常時・クイックを飲んだ状態の両方）と対比して明確に描かれており、印象的だと感じたからである。他の話では専ら、のんびり屋ののび太がひみつ道具を介して時間を有効活用しようとするのがお決まりの流れである。宿題ができていないと焦る描写はあれど、少なくとも本ストーリーではのび太の焦る様子は描かれておらず、一貫してのんびりである。「のろのろ、じたばた」というタイトル自体も然ることながら、最後ののび太のパパとママを除いて、クイックを飲んだドラえもんとはスローを飲んだのび太の対比構造が非常に簡明に描かれている。



図2 「やきいもは、食べるまえにおならをする。」ボム

前後のコマも含めてドラえもんのせっかち・疾走感が描かれており、非常にテンポが良い。

我々が自ら日々忙しいと感じる生活を見つめ直してみれば、実は優先度の極めて低い事柄に脳内を埋め尽くされているだけなのかもしれない。或いは本当にやる事が多く、物理的に時間が足りていないのかもしれない。いずれにせよ、何かにつけて設定される締切を絶えず意識しつつ、また同じ時間が与えられるなら幸福を最大限にできるように努めようとするのが性である。要領は当然良い方が良いと考えるし、「無駄が必要だ」という言説に耳を貸しつつも目の前の厄介なタスクをどうにかしたい。効率至上主義とは少し異なり、単にやる事が多すぎて発狂する日々を緩和したい。ある意味では充実した日々だが、ふとしたときにどつと疲れる。そして反動で休日を寝て過ごしては後悔する……。

時間が足りないと嘆く我々は、たとえひみつ道具を手にしたとしても、きっと膨張した時間の中でやはりまた時間が足りないと嘆くことだろう。眠くならない薬で24時間連続起床を365日達成し、時門で時間を遅らせてもなお物足りず、果てはタンマウォッチで永久的に停止した時間の中で、取捨選択を忘れて全てを消化しようとするのだろう……。

今こそ、我々はスローを飲むべきではなからうか？

ちなみに前の章タイトルの「のんびり行こうよ、人生は。」という台詞、ググってみるとみんな同じことを

考えているのだなと思わずにはいられないほど、この台詞に言及し、自分を見つめ直す記事がヒットする。現代というのは速すぎるのかもしれない。この話は子供の頃に何度も読んだはずだが、当時は数あるコマのうちの1つに過ぎなかったように思う。それが、だんだんストーリー構成の巧さなどの技術的な部分に着目したり、自らを振り返る機会を生んだり、やがて漠然とギャグ漫画として鑑賞していた作品の、ある種の深みに到達する。そして他方で、自分がもう子供でないことに気付くのである。前章ののび太の台詞——のんびり行こうよ、人生は。——は、彼自身の人生観を表すだけでなく、我々へのメッセージであると捉えるのは拡大解釈が過ぎるだろうか。

5. 結

そうは言っても、何だかんだ時間操作系のひみつ道具は誰もが切望するところである。しかし時間を自在に操ることはできない(だからこそ「あつたらいいな」なのである)。こうしている間にもやることは山積し、24時間はあつという間に過ぎる。こういうとき、我々はどうすればいいだろうか？簡単である。

スローを飲んで、のんびり行けば良いのである。



図3 眠くならない薬。欲しい。

参考文献

- [1]. 藤子・F・不二雄：ドラえもん，小学館，5，pp.5-19，2007.
- [2]. 藤子・F・不二雄：ドラえもん，小学館，6，p.7，2007.
- [3]. 藤子・F・不二雄（監修）：ドラえもん最新ひみつ道具大辞典，小学館，2008.